

説明会実施概要・主な意見一覧

対象:小田原市に在住・在勤・在学の方

申込:ホームページまたは電話

周知:ホームページ、広報小田原1月号、

J:COM チャンネル「広報おだわら」 https://youtu.be/VNHVtsL3QiA?si=r6zHLWx5OYI3r_2u

自治会回覧 など

回覧

「新しい学校づくり」に関する説明会のお知らせ

教育委員会では、「10年後の新しい学校」とその実現に向けた課題などをまとめた「新しい学校づくり推進基本方針」を策定しました。

基本方針の概要の説明とともに、これからの「新しい学校づくり」に広く市民の皆様のご意見を反映させるために、次のとおり説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。

日時 場所	(1) 令和6年1月17日(水) 19:00~20:00 いずみホール (2) 令和6年1月25日(木) 19:00~20:00 こゆるぎホール (3) 令和6年1月31日(水) 19:00~20:00 UMECO会議室1~3 (4) 令和6年2月3日(土) 14:00~15:00 マロニエ集会室202
内容	・新しい学校づくり推進基本方針の説明 ・意見交換
対象	小田原市に在住・在勤・在学の人
定員	各回100人(申込先着順)
申込	電話(0465-33-1671) または ホームページ(下記QRコードから)

実施日時・場所	参加人数
令和6年1月17日(水) 19:00~20:00 いずみホール	9人
令和6年1月25日(木) 19:00~20:00 こゆるぎホール	6人
令和6年1月31日(水) 19:00~20:00 UMECO会議室1~3	28人
令和6年2月3日(土) 14:00~15:00 マロニエ集会室202	30人



基本方針の内容、説明会のお申込みはこちらからご覧ください



【問合せ先】
小田原市教育委員会
教育総務課 TEL:0465-33-1671



【説明会での意見】

日時・場所	区分	キーワード	内容	事務局回答
1/17(水) 城北タウンセンターいずみ	質問	不登校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校の子供たちが増えていると思うが、市としてどのような対応をとっているか。 ・ 不登校の子供の理由、原因などは分かっているか。 ・ 教育委員会としては、不登校を減らしていくことを目指しているという解釈で良いか。 ・ 不登校の原因について、学校そのものに問題があるのではないかという検討はなされているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育支援センター(はーもにい)の中に相談窓口があり、学校と連携して対応している。また、民間のフリースクールとも連携・情報交換しながら対応している。 ・ 毎年、長期欠席等の状況についてホームページで公開しているが、原因は「無気力・不安」が多い傾向となっている。家庭と学校との連携により早期に学校に戻れるよう取り組んでいる一方、今は必ずしも学校に来ることが全てではないという考え方も出ている。それぞれの子供にとって最適な場所で最適な学びが提供できることを考えていく必要がある。 ・ 子供にとって最適な学びの環境を整えることが大切であると考えており、それは必ずしも学校でなくても良いと考えている。 ・ 学校が原因なのかどうかの判断は難しいと認識している。全ての子供が 100%満足するというのはあり得ないが、どれだけそこに近づけることができるかということが重要である。
	質問	周知方法 支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席者に保護者がいない印象で、それは興味がないのか、周知の方法に不備があるのか、どちらと考えているか。 ・ 支援級に通っていると通信簿がつかず、その先の進路(高校等)の選択が狭まっている。進路の件で教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、保護者や学生、教職員などターゲットを絞った説明会や意見交換会を順次行う予定。今回の周知はHPや回覧板等で行ったが、周知方法については検討する。 ・ 市と県の教育委員会の連携については、対策を検

			<p>委員会に相談しても明確な答えが返ってこない。市と県の教育委員会で連携を取ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援級の子供が増えている現状で教職員の負担が増えている。 	<p>討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革の観点から、引き続き教職員の負担軽減に資する取組は行っていく。
	質問	地域への説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の意見も取り入れながら検討していくとあったが、地域への説明や意見聴取等はいつ頃行う予定なのか。 ・ 基本計画が出た後で地域の意見を聞くのか、基本計画策定過程で地域の意見を聞いて取り入れていくのか、どのようにしていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画の策定過程で行っていくことを想定しており、今のところ令和6年度後半頃と想定している。 ・ 地域の意見を取り入れながら合意形成を図る、と基本方針でも示しているところ。具体的なタイミングや手法については、このあと検討委員会の中で検討・整理していく。
	質問	学校運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小田原市教育大綱の重点方針8、「地域とともにある学校」の中に「学校運営協議会を通じて」とあるが、現状学校運営協議会に基本方針に関する資料が共有されていない。「通じて」というのはどのような意味なのか。 ・ 検討委員会のメンバーに学校運営協議会が入っていないのはなぜなのか。 ・ 学校運営協議会の中で検討した意見がどのように反映されるのかがわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会については、今後、基本計画の段階で各地域と協議する際に母体となって協議していくものと考えている。 ・ 検討委員会のメンバーには地域(自治会)の代表者に参画いただいている。学校運営協議会への周知も順次行う予定。 ・ 基本計画の検討において、地域とどのように協議していくかをこれから整理していく。その中で、学校運営協議会が主体となって検討する場面も想定されるため、その中でご意見を反映していく形となる。
	質問	ハードとソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要版を見るとハードの話ばかりでソフトの話が入ってないように思える。ハコ(ハード)だけ作って後は学校にお任せ、では学校は良くない。 ・ 建物を建てた後どのように使っていくのか、というこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフト面の施策については令和4年度に策定した「小田原市教育振興基本計画」で取りまとめており、「新しい学校づくり」はこうした施策を支えるハード面の取組が主となっている。

			とが項目として挙げられているが、全てを同時に考えていくのは難しいと考えられる。優先順位をどのように決めていくか教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ハードとソフトは両輪であると考えているため、両輪での効果が最大化できるよう、優先順位整理しながら進めていく。
1/25(木) 橘タウンセンターこゆるぎ	質問	地域開放	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会が考えている地域開放について、災害時以外の地域開放のイメージというものはあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在も校庭や体育館をスポーツ団体が、空き教室を文化団体が利用している。新しい学校における地域開放の範囲については、管理における教職員の負担軽減といった課題もあることから、現状の利用状況の把握・分析を進めた上で整理していく。
	要望	学校と地域の連携 PTA活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を全市的に運営していくとあるが、橘地域の学校運営協議会は機能している実感がない。学校側も必要以上に地域が学校に入って来ることを必要としない傾向がある。もう少し地域と交流する体制を作ってほしい。 学校運営協議会の中のPTAの活動が維持できなくなっている。PTAの活動が出来るような何かを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none">
	質問	再編案 子供への周知	<ul style="list-style-type: none"> 学校の建物や設備について、老朽化が進んでいるが、改修の優先順位などは分かっているのか。 認定こども園の設立の際に前羽幼稚園と下中幼稚園を統合する形で進められていたが、学校についても2つを1つにするといったことは個別に考えられているのか。 基本方針の内容を子供たちに対して説明する場を設けることはあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の個別施設計画があり、それに基づいて改修等は進めている。 個別の地域の学校配置案については、基本計画の検討において整理していく。 検討委員会でも子供たちの意見を取り入れる場があった方が良いという意見が出ており、先日小田原短期大学の学生に概要版を説明し、意見交換を行った。今後もこのような場を積極的に設定したいと考えている。
	要望		<ul style="list-style-type: none"> 橘地域の子供たちは地域のことを誇りに思っている 	<ul style="list-style-type: none">

			ので、今後も夢が見られるような計画にしていってほしい。	
	要望	少子化による集約化 DX化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橘地域でも少子化が進んでおり、学校の集約化も進めて行かなければならない。 ・ 学校のDX化を進めていくことで、教職員の負担軽減も必要となる。 ・ 学校運営に関して、地域ごとに活用できる資源も違うため、地域ごとに資源を最大限活用して基本計画に盛り込んでいってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要版P4に「地域資源を生かした学び」や「デジタルの活用」についての記述もあり、地域ごとに異なる資源を生かす検討や、デジタルを活かした教職員の負担軽減など基本方針ではまだ項目だけなので、今後実現できるようにしていく。
1/31(水) おだわら市民 交流センター UMECO	要望	曾我小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との丁寧な合意形成は、基本方針に記載されているように進めていただきたい。 ・ パブリックコメント大半が曾我小に関する意見だった。小田原市は中心市街地ばかりにお金を使っている印象。周辺の地域にも同じように対応してほしい。 ・ 民主主義の成熟度を測るにはマイノリティの人たちがどれだけ大切にされているかが指標になると思う。ぜひお金の使い方を考えてほしい。 ・ ある中学校に勤務しているが、予算がないということで天井の穴を画用紙でふさいでいる状況。お金の使い方を変えて、周辺住民の権利を保障するような学校づくりを目指していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ごとに学校がどうなるのか、という検討はまだ行っていない状況。学校と地域との関係は検討事項として重要なことだと考えているので、配慮しながら検討を進めたい。
	質問	校地の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ どこにどのような学校をつくるか、という検討段階では、今ある学校を建て替える、新規に学校を建てる、2パターンあるという考えでよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その点も含めて今後の検討となる。
	要望	特色ある学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曾我や片浦のような地域が市街化調整区域になるの 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と切り離して考えるのではなく特色ある学校

		校	<p>はそれなりの理由がある。小さな規模でも学校を分散配置していくことはコストがかかる。そうすると地域と学校とが共存することは難しいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域という小さな単位ではなく、小田原市全体という枠組みの中で、進学やスポーツ、芸術などの特色を持った学校をつくり、バスなどで通学できるようにした方がコストも安上がりで、多様性に特化した教員配置もできると思う。小規模校で多様性を追求するのは難しいと思う。 ・ 専門の教科は専門の先生やコーチを呼ぶなどして対応していくことが中学生以上には必要だと感じている。 	<p>を配置した方が良いのではないかとのお話だった。ソフト事業については教育振興基本計画の中でいろいろな施策を示している。それらも踏まえて、学校運営のあり方の部分で検討していくのではないかと考えている。いただいたご意見は検討委員会で共有し、今後の検討の参考とさせていただく。</p>
	質問	市域全体としての検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会単位ではなく、小田原地域として考えたらか。また、検討委員会ではそういう視点も検討したのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色ある学校、多様な学びを支える体制づくりの必要性などの意見はあった。それらを踏まえての基本方針となっている。 ・ 説明会の意見は検討委員会にフィードバックするため、それを受けて今後も検討をしていく。
	質問	財源、スケジュール方針変更の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校整備の財源はどこで確保するか。国からの借入れなどで子供たちの負の遺産にならないと良い。 ・ 10年後の新しい学校のイメージとあるが、10年後に全て完成するのか。 ・ 市長が変わると様々なシステムが変わるのを身に染みて感じている。ここで市長が変わるかもしれない。この方針も変わってしまう可能性があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校整備の費用については、国からの補助金なども活用する。(改築の場合)32.4億円がすべて市の負担ではない。 ・ 今回、検討委員会の中で新しい学校づくりを考えると、時間軸のイメージがしやすくなるよう、「10年後」という設定をして検討を進めた。財政面からも全ての学校を一括で整備することは難しいので、優先順位を定めて順次進めることになる。老朽化や安全度などの観点で優先順位も今後検討し

				<p>ていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> この事業を開始するに至った背景の一つは学校施設の老朽化であり、早急に取りかからなければならない問題と認識していることから、状況の変化に関わらず着実に推進していきたい。
	要望	若い世代への周知	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育は大変重要だと思う。今日、ここに来ている人よりもっと若い世代にしっかりとこの事業のことを説明する必要がある。この説明会も、来たい人は来なさい、ではなく、これからも住み続けたいと思ってもらうためのものだと思うので、若い人たちに強制的にでも来てもらって意見を聞くようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> フラットに募集しての説明会は4回実施する予定で、今回はHPと回覧で募集した。今後は小中学生や高校生、大学生、未就学児の保護者など、できるだけ実際の利用者に近い世代の意見を聞く場を積極的に設定していきたい。
	質問	不登校	<ul style="list-style-type: none"> 不登校が全国的に増えており、鎌倉市では学びの多様化学校(不登校特例校)が設置される。協働的な学びのイメージは湧いたが、個別最適な学びについて議論していることがあれば教えてほしい。 不登校について、ICT以外の検討はしているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの部分が近いかと思うが、子供たち一人ひとりの学習の状況に応じて、算数ドリルをデジタル化したものなどで、学習進度に応じた取組をしている。 不登校相談員が家庭を訪問している。また、教育支援センター(はーもにい)で家庭・学校と連携した取組を行っている。
	質問	支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 支援級に在籍する子の母親。支援級の在籍人数が増えてきている。支援級の教室はアコーディオンカーテンで仕切るだけで、隣の声が丸聞こえで、ただでさえ集中できない子が劣悪な環境で学んでいるという現状。 先生たちも若い先生が多く、支援教育の知識を持った先生が少ないように感じる。(主にソフト面で)先生への研修などを多くしていく方法や支援級在籍の児 	<ul style="list-style-type: none"> 支援級の児童生徒が増えているのは事実で、教室環境として難しい状況にあることも承知している。ハード面での対応はすぐには難しいところもあるが、個別支援員が担任と連携して一人ひとりを丁寧に支援できるよう、個別支援員の配置の充実に取り組んでいる。 教員の研修については、県の研修への参加に加え、市でも毎年支援教育の研修を行っている。ま

			童に対してどのような方向性を考えているか。	た、巡回相談という形で相談員が学校に出向いて、子供の様子を確認しながら学級担任に指導の助言を行うという取組も行っている。
	要望	支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 相談員の先生にもお世話になっているが、もっと専門的な知識が支援教育には必要。言語聴覚士や作業療法士を市で雇用して、各学校に巡回してアドバイスするシステムを取り入れてほしい。 	
	質問	特色ある学校	<ul style="list-style-type: none"> ここに住んでいて良いまちになってきたという感想を持たなかった。今回は、教育が今後どうなるか、期待をもって聞きに来たが、悪くはないという感想を持った。「特色を持った学校をつくったら良いのではないか」という自分とは違う意見を聞くことができて良かった。 インクルーシブ教育の小・中学校一体となった専門的な学校を作ることができたら画期的ではないか。特化したものを1つ建てることで人が集まってくると思うのでやってみたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育については、多様な子供たちが共に学ぶという考えと同時に、拠点化により充実した学び、支援を提供するという考えもある。いただいたご意見は検討委員会にフィードバックして検討していきたい。
	質問	リアルなコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でマスク生活が続いている現状がある。社会力を育むためには、コミュニケーションを図ることが大切だと思う。ICT で情報交換が簡単にできるのは良いが、まずは人と元気に話ができることが大切だと思う。音読など人前で声を出すトレーニングをもっと一生懸命やったほうが良いと思っている。小学校で社会力を育むために、今はどのようなことをしているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、子供たちの関わり合いが困難だったのは事実である。基本的な感染対策を前提に、現在は学校行事の制限などもなくなりつつあるので、関わり合いやコミュニケーションを大事にしていこうと考えている。ICT の活用で効率化できる部分は積極的に活用するが、直接話をしながら声を出しながら、というのは重要なので引き続き大切に行っていきたい。
	質問	防災機能	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災機能の充実とあるが、災害が起きると避 	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能については、教育機能と避難所機能をど

		新しい時代の学び	<p>難所になって学校教育の再開が遅れるというのがある。学校は一時避難であり、それ以降のことを考えると小田原市全体として防災をどのように考えるか、学校をあまり使わない・生活の場にしない対策が必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい時代の学びとあるが、何を想定しているか分かりにくい。ICT は道具であり、どう使うかが学びになると思う。新しい学びは何を想定しているのか。 	<p>のように考えるかという点も重要だと思うので、関係各課と調整を図りながら検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会力の育成」が目指す教育であるが、インクルーシブ教育や地域資源を生かした学び、ICT を活用した学びは手段になるので、これらを行いながら子供たちの力を育てていきたい。 ・ 施設面としては、文部科学省も施設のあり方の方向性を示しているところであるが、学びの多様性が進展する中で、黒板が前にある教室に机が一律に並び、一斉授業を受ける、という従来のスタイルでは対応しきれなくなっている。では施設をどうしていくのか、小田原が目指す教育の姿を踏まえて学校施設をどのように再構築するのか、ということは今後検討していくことになる。
2/3(土) 川東タウンセンターマロニエ	質問	学校運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小田原市の現在のコミュニティスクール(学校運営協議会)の現状を教えてください。(メンバー、活動など) ・ 運営は学校主体という理解でよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会は、小学校は全 25 校、中学校は 11 校中7校で導入しており、来年度には残り4校にも導入される予定。メンバーは学校によって様々で、自治会関係者やスクールボランティア、PTA、子供会、近隣の幼稚園・保育園の園長など。活動についても、交通安全や農業体験など、学校によって特色が見られる。 ・ 基本的には学校主体だが、立ち上げたばかりの学校は、会議の開催回数に差があることも。
	質問	学校運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局として、学校運営協議会の実態を把握しているのか。学校から地域へのお願いをするだけで、つながりになっていないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち上げ時は伴走する形で会議に出席しているが、その後は全てに出席しているというわけではない。また、地域によって温度差があるのは承知し

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 小田原市としては地域のコミュニティスクールを今後どのように発展させていくのか。 	<p>ており、先進的な取組をしている方を講師にお招きし、本旨について考えていただくような研修を定期的に行っている。地域とともに新しい学校づくりを考えるうえで、学校運営協議会は重要な役割を持つと考えているので、実態把握と活動の充実に努めたい。</p>
	質問	不登校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校についての現状や対応はどうなっているか。 ・ 不登校の子供たちの居場所としてどのようなところがあるのか、具体的に教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は学校ありきだったが、今は多様な学びの場を重視しており、子供の特性に合った場へつなげていくという考えになっている。 ・ 多様なニーズに応えることにより、不安を感じている子供にも安心できる環境を提供することができることから、多様な視点からアプローチしていきたいと考えている。 ・ 不登校の人数は、令和4年度は小学校 123 人、中学校 282 人となっている。教育支援センターでも支援員への相談につなげたりしている。 ・ 不登校の原因は「無気力・不安」が多く、特定の原因というより不安が募って学校を休みがちになり、そこから生活が乱れたり、人とのつながりがなくなったりして長期欠席につながっているという状況が目立っている。 ・ 学校以外の居場所として、しろやま教室・マロニエ教室がある。そのほか、民間のフリースクールとも情報交換しながら、学びが切れないように、その子なりの外とのつながり方を考えながら支援を実施している。

	質問	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員のストレスの原因として考えられるものについて具体的に教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きなストレスを抱えている教職員が増えていることは認識している。対応策として、風通しの良い職場づくりに向けた支援や助言を行っている。 ・ ストレスの原因として多いのは、時間外労働というより、子供・保護者との関係づくりやコミュニケーションがうまくいかないことや、職場での人間関係がうまくいかないこと、中学校では部活動の負担など様々である。
	質問	支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が支援学級でお世話になっている。家から通える範囲に受け入れてもらえる学校があることはありがたいと感じている。方針の中に支援学級の拠点化とあるが、どのように拠点化していくのか。 ・ インクルーシブ教育は、相互理解が最も大切だと思っている。ハード面ではなく、ソフト面で子供同士や教職員とどのように理解を進めていくか教えてほしい。また、そのための研修などを実施しているのか。 ・ 「学校における学び」が三点あってどれも進めてほしいが、それら全て行うと先生方の負担にならないか。施策を進めるうえでどれくらい先生の負担が増えるか把握することはできるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には全校に支援学級があるのが原則と考えているが、設備や人員の関係も考慮すると一部拠点化という選択肢も想定される。詳細は基本計画の中で検討していく。 ・ ご指摘のとおり、インクルーシブ教育において相互理解は重要である一方、見えている部分しか理解しにくいという課題もあり、見えにくいところを理解しようとするのが本当の意味での相互理解につながると思っている。教員は経験や教員間のコミュニケーションを通して相互理解に努めているが、補完するための取組として、国際医療福祉大学の理学療法士・作業療法士で構成される支援チームが各校を巡回し、助言や支援を行っているほか、市立病院の言語聴覚士からも定期的に支援をいただいている。そのほか、心理相談員や教育相談員など、学校の教職員だけで支援しにくい部分について、助言や支援を行うシステムを構築している。 ・ 教職員への負担について、新しいことが追加され

				<p>る一方で、デジタル活用などにより校務や事務の軽減につながると考えている。教職員の負担軽減なしに新しい学校づくりは進まないと思っているので、バランスを考えながら取り組んでいきたい。</p>
	質問	今後の検討	<ul style="list-style-type: none"> 11 ページの「今後の検討に向けて」について、地域との協議についてペースや回数など、どのくらい本気で入り込んで取り組むつもりなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は、基本方針を広く周知するための説明会として実施しているが、今後は、未就学児の保護者や学生・若者など、対象者を絞った意見交換等を多く行うことで、事業の周知を図っていきたいと考えている。 地域への入り方や検討体制は、今後基本計画の中で詳細を詰めていくが、地域総ぐるみの議論が重要と考えているので、各地域の状況も踏まえながら合意形成を図っていきたい。
	質問	民間との協働	<ul style="list-style-type: none"> 「学校のマネジメント」の中に「民間活力の導入」とあるが、具体的なイメージはあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な取組を想定したものではなく、詳細は今後検討となるが、検討委員会では「マネジメント」の視点の重要性について指摘を受けている。 一例として考えられるのは、民間資金を活用した施設整備や公共施設と民間施設の複合化など。また、地域資源を生かした学びにおいては、今も地場の産業との連携が進んでいる。ハード・ソフトともに、公共だけでは成立しづらくなってきているので、この視点は重要であると考えている。 財源についても、基金の設置や寄附の活用など、未来の子供たちに資する取組は積極的に進めたい。
	質問	目標年度	<ul style="list-style-type: none"> 10 年後の新しい学校とあるが、R14 年を目指してい 	<ul style="list-style-type: none"> 本編に記述があるが、令和 15 年度(2033 年度)

			<p>るのか。R8 年度スタートという文言もあり、いつを想定しているのか聞きたい。</p>	<p>に具現化を目指すとしている。実現を目指して着実に進めたい。</p>
質問 意見	現状と課題 認識 地域検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の現場の現実について、教育委員会はどこまで把握しているか。実際の学校現場は示されている理想とは反対に位置していると思う。 ・ ICTについても、端末の活用は教職員によって大きな差がある。評価も教職員の裁量に違いがあり、現状が今後の未来像とかけ離れていると感じている。 ・ ある学校の中に「みんなの教室」があるが、利用のされ方について、「教室で騒ぐのならみんなの教室に行け」といった不適切と思われる指導がなされている。 ・ 現場が今回の新しい学校の未来像からかけ離れていると感じている。現場の先生の意識改革が必要ではないか。 ・ 「地域住民」という発言があるが、具体的にはどこを対象としているのか。学校運営協議会主体では、自治会の方が多くなり、世代交代が進まないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の把握として、昨年度、保護者、教職員、地域関係者を対象としたアンケートを行っており、基本方針はその結果やいただいた意見も反映している。 ・ ご指摘のとおり、基本方針は10年後の望ましい教育、新しい学校について提示したもので、現実と違う点や現状との差が大きい部分もあることは認識している。 ・ ICTの活用状況については、学校や教職員、年齢によって違いがあることは把握している。教育指導課では学校ごとにICT担当の教職員を配置し、その教職員を通じてICTの普及を行うとともに、月に数回ペースで外部の支援員を派遣し相談できる環境を整えている。また、ICTの使い方がわからない教職員向けの研修も行っている。 ・ 指導については教職員の経験則からアップデートされていないところも多く、新しい学校づくりと合わせて、教職員の意識改革に取り組んでいく必要がある。 ・ 「地域住民」とは、基本的には老若男女問わず、「学校に関わる全ての人」と捉えている。 ・ 現状の課題は数多くあり、誠実に対処していく必要がある一方で、この事業においては、未来思考で教育と教育環境を考えていくこと、ネガティブなこ 	

				とをポジティブに変えていくよう努力することが重要であり、教育委員会の使命と考えている。
	質問	施設整備 水泳授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設の改築の目安はどのくらいなのか。 ・ 10年後に改築を見据えているのであれば、どのくらいの学校が改築の対象となるのか教えてほしい。 ・ 改築時の学校運営、教育活動について、仮設校舎を建てるのか、近隣の学校で一時的に学ぶなどが考えられるが、どのようになるのか。 ・ 学校教育で、民間スイミングスクールと連携していると説明があったが、どのスクールなのか。2月で神奈中スイミングが撤退する予定だが、その影響で他のプール会社に負担がかかるのではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改築・改修については、令和2年度に策定した「学校施設中長期整備計画」において、旧耐震基準で建てられたもの(昭和56年以前建築)は築70年を目安に改築、新耐震基準で建てられたものは築40年を目安に長寿命化改修を行い、80年使用したうえで改築、という基準を定めている。 ・ 10年後までに5～6校が対象となる見通し。 ・ 運用は、敷地の状況や校舎の余裕の有無によって変わってくる。 ・ 今年度は、4つの小学校が2つの民間スイミングスクールを活用して授業を行った。神奈中スイミングが閉館した後も、質を維持した形で水泳授業を行うことができるよう調整している。
	質問	方針の記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの規模、学校配置の考え方について、文章を読むと、「課題がある」「検討する」という文言が結論になっており、方針が示されていないように思う。この内容で基本計画に進めるのか疑問がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの規模、学校配置については、今後全市的な整理が必要な検討事項を提示するに留めている。詳細は、基本計画で検討していく。
	質問	不登校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校について、学校に戻るだけでなく民間のフリースクールに通うという選択肢もあると思うが、保護者の費用負担が心配。助成金等の負担軽減はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の市町村ではそのような動きもあると聞いているが、フリースクール通学に対する助成制度は今のところ用意していない。
	意見	教職員の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の指導が、未来をつくる人材に結びついているのか不安。指導の中身を増やすだけでなく、いらぬものを減らしていくことも検討してはどうか。 	

【アンケートフォームに寄せられた意見等】

区分	キーワード	内容	事務局回答
意見	説明方法	・ 説明会資料は概要版でなく、本編の資料でポイントのみの説明を受けた方が理解が深まると感じました。	
意見	防災	・ こういう機会を作ることは大変だと思います。ありがとうございます。最後の防災の問題はぜひ考えて建築に取り入れてください。	
意見	事業全般	・ インフラを作れば自ずとソフトは整ってきます。	
意見	特色ある学校	・ 説明いただきありがとうございました。子供を見ていて作文や制作などで進度が早すぎる場合に時間を持て余すことがあるとの声を聞いています。不登校のうち一定程度みんなが同じペースで学習を進めていくことへの違和感でいけなくなる子がいるというのも聞くので、進度が早い子への個別最適な学びがどうあるべきかについてもご議論いただければと思います。N 高などの選択肢も出てくるので、リアルな地域の学校に行く意味というのをもっと突き詰めていく必要があると思います。	
意見	教育活動	・ 小樽市のように音読を積極的に取り上げてくださり、ありがとうございます。社会力を養うために話しが出来る子供になるため声を出してみる音読ワークが大切です。北海道小樽市では教育委員会が先頭に立って毎年音読カップがあり国語力を伸ばしています。小田原でも検討して頂きたい。(回答希望)	・ 音読は、子供たちが語彙力や思考力、コミュニケーション能力等を身に付ける有効な手段の一つであり、本市でも特に小学校低学年を中心に各校で継続的に取り組んでいる。お示しいただいた小樽市の事例等も参考に、これからの子供たちの学びをどのように支えていくかについて検討していく。
質問	支援教育	・ 学校における学び…インクルーシブ教育を打ち出すのは理解できるが、これは健常者からの視点ではないでしょうか？支援学級のお子さんを持つ親御さんと関わる機会があり、誰と	・ 市のファミリー・サポート・センターの運営をしている団体の代表の方が公募委員として参加しており、検討の中でも支援を要する子供たちの保護者からの意見を多くいただい

		<p>でも共生するには迷惑がかかってしまうのではないかと心配が多いと言う話を聞いています。委員の中には障がいがあるお子さんを持っている方が在席されますか？いらっしゃらないのであれば、様々な境遇の方から情報を得て、より子供達に寄り添った方針を打ち出してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前、学校内に地域住民のコミュニケーションの場の創造を提案しましたが、セキュリティの問題から不可能と却下されました。学校と地域との関係は、このセキュリティに関してはクリアになったのでしょうか？ 	<p>る。今後も、規模の大小に関わらず、様々な立場の方からご意見を伺う機会を多く設けていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学校では、教職員の負担軽減の視点からも、地域利用スペースのセキュリティの確保は必要条件と認識しており、今後、具体的な手法は「新しい学校づくり施設整備指針」の中で検討する。
意見	特色ある学校 防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10年後の学校は、三の丸小と城山中、小田高を見ればわかります。立て直しても大した変化はないばかりか、昔の良い教育が失われている。間違っていた(ところばかりではありませんが)と反省してから始めるのがいいでしょう。日本に役立つ人材を果たして生み出す教育の場がなされているのか？ということです。意見の中で、その学校だけで地域と共に成立する学校にとらわれず、スポーツ、不登校、支援などに特化した学校、また進学を目的とした学校を建てる案に非常に興味を持ちました。ただの学校ではなく、ある部門に(と内容を指定し)特化したハコを、デーンと建てれば、その成長で方向性も分かってきます。人材も集まってきます。また、防災面の意見も重要でした。ぜひ、京都のように民間の歳入も考慮に入れた、柔軟な構想を立ててください。 	
感想	事業全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話を聞いて、よかったです。多様性という言葉だけ一人歩きし、みんなが多様性というだけで、まだまだ変わらないと感じました。我が家は発達障がいがあり、先行きまだまだ不安の中、多様性が前に出されてしまい、また多様だから仕方な 	<ul style="list-style-type: none"> ・

		い、皆同じと生きづらさが増すような気持ちにもなりました。また機会があれば、話を聞きたいです。ありがとうございました！	
意見	周知方法	<ul style="list-style-type: none"> 今後の具体的な計画で、実際、わが子の通う学校がどうなるのか、保護者としては一番気になるところです。しかし、同じ職場で小田原在住の子育てしている同僚に話をしても、この推進事業について知らないのがほとんどでした。そのためにも、説明会の充実をお願いしたいです。小さな子の保護者が参加しやすいように、支援センターでの開催や、小田原短大との連携で託児付きの説明会の開催、オンラインでの参加可能等、誰もが行きやすい、参加しやすい、関心を持ちやすいような取り組みをお願いしたいです。就学する頃になって、これまでと変わることを知るのではなく、きちんと事前に知ったうえで、就学していくことが望ましいのではないかと考えます。開かれた市政への取り組みをお願いしたいです。 	<ul style="list-style-type: none">
意見	防災	<ul style="list-style-type: none"> 立地についてはハザードマップや断層図と照らし合わせた説明が必要と思います。児童生徒の集まる場所として、緊急避難場所として、二つの意味で重要な情報と思います。 	<ul style="list-style-type: none">
意見		<ul style="list-style-type: none"> 日頃から教員の人員不足を感じております。インクルーシブ教育を進めるにあたって、人員の確保が必要ですが、教員以外の教育に理解のある大人が学校に入り、一緒に子供たちを支えていけるかたちを作っていってほしいと思っております。職員室のカウンターや相談スペースなどで教職員と子供たちが気軽にやりとりできるようにするためにも、教職員の負担を少しでも分散させ、ぜひ「人員が足りないために対応できません」という理由がなくなるようにしてほしいです。よ 	<ul style="list-style-type: none">

		り良い学校のためには、ボランティアの方々にばかりに頼れないような気もします。	
--	--	--	--